

(1) 仏教文化研究所活動報告

○公開文化講演会の開催

仏教文化研究所主催による文化講演会は、昭和五十九年十一月二十六日に開催された。今年度は、立正大学教授(日蓮教学研究所長) 文学博士浅井円道先生の御出講を請い、「四箇格言とその心」の演題によって二時間二十分に亘り高説を拝聴した。浅井教授は以下の論旨を展開された。(1)所謂四箇格言と称せられる内容を有つ御文書は文永五年『与建長寺道隆書』文永八年『行敏御返事』・弘安三年『諫曉八幡抄』を教えること。(2)宗祖の四箇格言の思想的根拠は「爾前無得道」にあること。(3)念仏浄土思想(専修念仏)では成仏はあり得ないこと。(4)寂山遊学の成果(立教開宗)としての教判の樹立の基準を「教法浅深」においたこと。(5)法然は浄土三部経を依経としたが、その依経の論拠を示していないこと。(6)『守護国家論』に於て浄土批判・権経批判を体系化されていること。(7)末法時に法華経の広まるときは「仏眼をかつて時機を勘えよ」(撰時抄)との教示を素直に享受して、仏慧をもって法華経流布の時を選択せよと、宗祖の教示を通して強調された。(8)四箇格言の主張は、翻

えせば立正安国と云うこと、その立正安国とは上求菩提下化衆生の菩提心の実践であること。(9)四十五字法体段の久遠の生命の世界、更には「事」の宗教としての宗祖の法門を説き明していただいた。(10)宗祖は大曼荼羅の光明に照らされて、本仏と感応道交できる境地を開顯されたこと。等々、該博の知識を駆使して、当日の聴衆(身延山短大教職員・短大生・一般聴衆)に訴え共感を博したのであった。

○第二回文化講演会

今回は、講師・国士館大学講師・農学博士・安間繁樹先生を迎え昭和六十年一月三十日に開催。

演題「日本の野生動物―特にイリオモテヤマネコに就て―」

講演要旨を簡条摘記すれば、(1)日本の哺乳類は種類が多いことと珍種が多いこと。(2)我国の陸棲動物の分布は海峡の成立と南北に長い列島と深い関わりがあること。(3)特に南西諸島(屋久島・沖縄・奄美郡島)の陸生哺乳類に特色が見られること。

(4)南西諸島も屋久島と奄美諸島の間に横たわる吐噶喇列島と海溝が所謂、旧北区(ユーラシア大陸)と東洋区(南西区域)の境界をなし、棲息動物の種類形成に関係していること。(5)西表島の「イリオモテヤマネコ」(現在八十四の棲息確認)は正に自然保護動物として棲息を見守っていききたい珍種であること。

——安間先生は早稲田大学の法学部・教育学部理学科を卒業、東京大学農学系研究科博士課程に在籍、エジンバラ公を総裁と

する国際自然保護連合に所属する気鋭の研究者であり、講演会にはNHKの教育TVでも全国放映された貴重なスライドを使用し、学生・生徒・聴衆に対して動物愛護を強く訴えた。尚安間先生は、本学の中條暁秀助教と高校が同期であることを付記しておく。

学会活動報告

○日本仏教学会

昭和五十九年度学術大会は、六月九日(土)十日(日)の両日にわたり大谷大学(京都市北区)にて開催された。今年度は「釈尊観」を共同研究課題とし、本学から奥野本洋講師が研究発表を行なった。

日蓮聖人の釈尊観

奥野 本洋

○日蓮宗教学研究発表大会

第三十七回日蓮宗教学研究発表大会は、九月二十八日(金)・二十九日(土)の両日、日蓮宗宗務院において開催され、本学から左記の四氏が研究発表を行なった。

維摩経玄疏の研究

若杉 見龍

「西谷草庵考」

奥野 本洋

薬王品の一視点

高橋 堯昭

身延山における日蓮聖人の教学

―三秘を中心として―

上田 本昌

○日本印度学仏教学会

第三十五回学術大会は、十一月十日(土)・十一日(日)の両日、大正大学(東京都豊島区)において開催され、本学より左の二氏が研究発表された。

日蓮聖人における五義の成立と展開

上田 本昌

朝師御書見聞の一考察

―開目抄私見聞について―

中條 暁秀

真乗院(竹下) 日康法主・学長猥下遷化

身延山第八十九世法主・身延山短期大学々長、真乗院日康上人には、昭和五十九年四月十六日午後四時五十二分水鳴橋にて御遷化された。

上人は静岡市に誕生、立正大学史学科を卒業して、同史学科研究室助手に抜擢されて研究者の道を歩むかと思われたが、昭和八年望月日謙法主(八十三世)の招聘を受け身延山久遠寺の録事に就任、爾来、身延山の枢要部に在って才幹を発揮される事となりました。身延山久遠寺庶務部長・身延山総務・身延山短期大学々園理事長・身延山八十九世法主猥座に就かれました。この間宗祖七百遠忌正当会の大導師の弘を執られ身延山大本堂の建立をはじめ、諸堂の新建立・改修等々、輪奐莊嚴の美

を現出されたことは日康上人の法功として後世に遺る偉業であります。昭和六十年五月大本堂入仏落慶の祝典を目前にて五十九年三月三十日突然に四大不調となり、御遷化されましたことは、身延山並に学園教職員一同にとって悲痛の極みであります。学園一同は、上人のお志しを体して精いっぱい努めて参ります。謹んで日康上人の増円妙道をお祈りいたします。

岩間日勇親下・身延山第九十世親座に晋董

昭和五十九年四月二十日身延山祖山会は、万場一致を以つて、久遠寺総務・岩間日勇親下（山梨県増穂町昌福寺山主）を身延山九十世法主に推戴し、参与会の承認を得て法主親座に就かれました。

岩間親下には昭和三十四年、藤井日静法主の懇請をうけて身延山布教部長に就任し、身延山布教隊を組織して全国各地に聲鼓宣令、身延山の宣揚に尽力されたことは周知される所であり、また、「光明」誌を通して、或は優雅諳々とした法話は聴衆を魅了した。身延山のみならず宗門の発揚に貢献された法功は大きく、日蓮宗総合財団賞（布教伝道部門）を受章されたことは、よく親下の法功を語っていると思います。昭和六十年五月は宗祖七百遠忌悼尾を飾る大本堂落慶入仏大法要が厳修されようとしております。何卒、新法主親下には法体愈々健かに、為宗護山に御尽力下され、併せて本学々長として祖山教学発展の為に一臂の御助力を賜わらんことをお願い申しあげ、御入山

を心から表賀いたします。

尚、岩間法主親下の懇望によって、身延山総務の職には、望月一靖親下（東京都善性寺山主）が御就任になられました。望月総務は、人も知る如く、八十三世望月日謙上人の法孫に当り、また八十七世望月日雄上人の法息であります。新総務の行政の手腕は、立正大学常任理事長、日蓮宗副総長の要職歴任が語る所であります。新総務には身延山短期大学々園理事長も兼任されます。新法主親下共々に祖山教学に対して、温かい御教示を懇願して、御就任の祝意といたします。（文責 町田）

訃報

身延山短期大学々頭・身延山高専学校長、里見泰穂先生には、昭和六十年一月十三日永眠されました。先生は本学園に在って法器養成に尽瘁されること四十有五年の長きに亘りました。この間、短期大学昇格運動とその後の基礎固めに尽力、他方、日蓮宗教学審議会委員、日蓮宗普通講習委員長として宗門行政に業績有り、又、山梨県私学振興会理事、山梨県退職金財団理事として私学教育の発展に寄与された。国家は永年の功を彰して、文部大臣教育功労章、勲四等瑞宝章を授与して功を讃えています。

先生には教育一筋に情熱を注がれ、学生徒に教授するに木訥諄諄として学徒の啓発に努め、また該博なる西洋哲学の学識に

裏付された仏教哲学のすぐれた業績は、日本仏教學界に周知される所であります。先生の学恩に浴した宗門学徒は幾百人、昨年同窓会有志「鶴群会」と歩を合せて本学に於て「里見泰稔先生著作論文集」を編して先生に献呈せしは、せめてもの学恩報謝でありました。

記して里見泰稔先生の増円妙道をお祈りいたします。

○法号 泰稔院日南上人

○学園葬 昭和六十年二月十四日

午後一時・身延山短期大学大講堂にて

図書館だより

本年も図書館本運動に同窓生の各聖より御高配と御厚志を賜わりまして、数多くの献本がありました。厚くお礼を申し上げます。御蔭様にて次第に蔵書が増えており誠に有難度いこととあります。何卒、今後共よろしく皆様方のご協力を切に御願ひ申し上げます。

図書寄贈者御芳名

1 灘上忠教師 『高麗大藏経』全四八巻 『正藏经』全七

○巻 『正藏经』全一五一巻 『佛教大藏经』等三

五一冊

神奈川県横浜市 善行寺

2 新川日見師 『日本の歴史』全十六巻等三一〇冊

東京都墨田区太平 陽運院寓

3 戸田浩暁師 『文心雕龍』上下等六冊

東京都練馬区 大栗院

4 児島鍊戒師 『文化誌日本徳島県』一冊

徳島県徳島市 妙永寺

5 坂輪宜敬師 『佛教美術の廻廊』一冊

東京都港区白金台3-17-5

6 都守健二師 『ココ、お話しよう』一冊

岡山県岡山市 妙広寺

7 大石要英師 『岩波国書総目録』全八巻等一六冊

静岡県庵原郡由比町由比 本光寺

8 原 光可様 『神道大系』全二〇冊の内、四二冊

大阪府茨木市

9 本田敬信様 『西田幾多郎全集』等七三冊

千葉県松戸市

10 今井昭男様 『佛教大辞典』等二七冊

千葉県市川市行徳駅前

11 永岡淳正様 『龍華御本尊集』一冊

京都市上京区六軒町通 灯明寺

12 東京都支部長久本信明師を通じて東京瑞輪寺小林頤榮師御紹介により、東京都文京区湯島4-9-7の大森暢久様より

り、『日本文化の歴史』等八七一冊の献本がありました。

合計 一六九九冊 そのほか、

大石要英師 静岡県庵原郡由比町由比本光寺 五〇万円相当
牛居一教師 大阪市東住吉区西今川町妙法寺一〇〇万円相当
の贈呈を受けております。

献本運動に対しまして諸氏より御高配と御厚志を賜わりましたこと衷心より御礼を申し上げます。

(2) 同窓会関係

◇同窓会本部だより◇

身延山教学の振興・法器養成の施設の充実のために、身延山学園図書館の建設が最もたれる所であったが、同窓各位の献本運動、そして建設推進の運動がもりあがるなかで、図書館建設の議が本格的に議せられるに至りました。こうした情況の下で同窓会本部役員会を昭和五十九年十月三十日召集しました。

図書館建設を援助するという重要協議事項もあつたので、本部役員全員（顧問・正副会長・理事・幹事・支部長）に参集をねがい、緩々と協議を重ねました。殊に身延山当局を代表して望月一靖総務様の臨席をいただき、総務様から「大本堂建立落慶の後、学園の充実と図書館の建設を最優先の事業とします」との公約を賜わり、参会役員一同も心から諒としたのである。総務様の御熱意を享けて同窓会本部としても早々に建設勧募の

運動を展開することを決議して、左記の趣意書を全国同窓生各位に配布（支部長の労を煩わして）することとしました。

身延山学園図書館建設資金勧募趣意書

宗門は日蓮聖人七百遠忌を円成、身延山に於ても世紀の報恩諸事業を完遂、就中、その中心浄業である大本堂の建設も成り、昭和六十年五月には入仏落成慶讃大法要を厳修いたすことになっております。

さて、母校身延山学園に在っても先年来より教学振興・学内諸施設の充実へと努力を傾け、殊に法器養成の大目的のために図書館建設の機運を高めて参りました。吾等同窓生も母校の図書館建設には強い関心を寄せる所であり、既に献本運動を推進して数年、実績を着々とあげて参りました。

身延山当局に於かれても図書館建設を御遠忌円成後の最優先の事業とされることを公約ください、学園理事会に於ても確認されております。

また、地元山梨県支部では昨年来より勧募運動を強力に展開して目標額を達成しております。こうした現情に鑑みて、吾等学園同窓会本部としても左記要項により、勧募活動を推進していく事を決しました。

何卒母校の発展・法器養成の大眼目を達成するために同窓各位の格段の御協力を賜わりますよう懇請申し上げる次第です。

勧募期間 自昭和五十九年十二月一日 至昭和六十一年三月

三十一日

目標総額 一億円(一口 五千万 二千万)

身延山学園同窓会本部

会長	松井大周
副会長	小崎龍雄
副会長	林是幹
副会長	岩田日成
副会長	大石要英
副会長	中屋教海

同窓会々員各位

尚これより早く、山梨県支部(会長岩田日成師)に於ては勸募を展開、左記の趣意書を配布して協力を呼びかけ、短期期間にその目標を上回る成果を収めたのでした。

趣意書

七百遺忌も円成、身延山に於ては記念事業も着々完成、就中、中心事業たる大本堂建設なり、去る九月十日には新刻なつた三宝尊も奉安され落成式を昭和六十年に迎えようとしております。

母校にあつては予て四年制大学昇格の準備のためにも、亦法器養成と云う大目的のためにも、身延山学苑に図書館をとの機運が漸く高まり第一歩として献本運動が行われ、既に数万冊の献本がありました。当然の事ながらその格護の場所も造らねば

なりません。昨今吾等同窓生は母校充実のため図書館建設資金の一分でも拠出し合つて、推進の基盤たらしめようとの運動を展開し、去る七月二日山梨県支部総会に於て、勸募の方途が協議せられました。その結果左記により勸募することになりましたので御了承、御協力を賜りたく御願ひ申し上げます。

記

勸募期間 昭和五十八年十一月一日より

昭和五十九年三月三十一日まで

目標総額 一千万円(一口 五千万 二千万)

同窓会山梨県支部長

岩田日成

各位

○本誌57号執筆者紹介(論文掲載順)

望月海淑	本学教授	仏教学・梵文学
上田本昌	本学教授	日蓮教学・祖哲学
中條暁秀	本学助教授	日蓮教学・祖哲学
高橋堯昭	本学教授	哲学・東西比較思想史
町田是正	本学教授	歴史学・中世仏教思想史
一宮嘉孝	本学助教授	体育学・柔道
北沢光昭	本学学生会員	札幌市光徳寺裡
奥野本洋	本学講師	天台学・日蓮教学
大森孝	本学教授	英語学・英文学